

平成16年5月20日

各 位

会社名 株式会社 エス・サイエンス
代表社名 代表取締役社長 品田 守 敏
(コード番号5721 東・大・名証第1部)
問合せ先 常務取締役 太田 洋 三
(TEL 03 - 3216 - 6431)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 15年 12月 5日の中間決算発表時に公表した平成16年3月期(平成15年4月1日～平成16年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 16年3月期通期業績予想数値の修正(平成 15年 4月 1日 ~ 平成 16年 3月 31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 15年12月5日 発表)	2,640	1,980	2,670
今回修正予想(B)	2,430	3,040	9,340
増減額(B - A)	210	1,060	6,670
増減率	8.6	153.5	349.8
前期(平成15年3月期)実績	2,329	1,621	2,465

2. 16年3月期通連結業績予想数値の修正(平成 15年 4月 1日 ~ 平成 16年 3月 31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 15年12月5日 発表)	2,700	1,990	2,680
今回修正予想(B)	2,430	3,550	9,850
増減額(B - A)	270	1,560	7,170
増減率	11.1	178.4	367.5
前期(平成15年3月期)実績	2,329	1,641	2,485

3. 修正理由

現在監査中ではございますが、個別業績につきましては、売上高は計画に対し多少減少となる見込みでございますが、経常損失及び当期純損失につきましては、当初予想より大幅な損失の増加となる見込みでございます。

その理由といたしまして、経常損失につきましては、金属微粒子事業の内、銅微粒子の営業が当期予測通りの達成ができず事業経費の全額とコンポスト化システム開発費用を試験研究費として費用計上したこと又、新株予約権による増資費用を計上したことによるものであります。

当期純損失につきましては、特別損失として投資有価証券評価損等(1,960百万円)を計上するとともに、今期を以って過去と決別し翌期以降早期に黒字を計上できる会社に転換するたすためには、負の資産を一括処理することが不可欠と判断した次第であります。

特別損失計上の負の資産一括処理の主な内容は、複数会計年度に亘り費用計上される性質の特許実施権(3,423百万円)及び磁石関連の遊休固定資産(1,048百万円)の一括除却であります。

環境事業の「高速コンポスト化システム」の開発につきましては、本年5月下旬頃には独立行政法人科学技術振興機構の認可となる見通しであり、販売体制を一段と強化し営業活動の早期実現に邁進してまいります。又、金属微粒子事業は漸く本格操業の態勢が整い、数十社にサンプル出荷を実施し各社の評価も高く近々本格的な出荷が開始される見通しであります。

この様な大幅な損失計上ではありまするが、キャッシュフロー - は、翌期以降短期貸付金2億円の回収と新株予約権の未行使分1,320万株、594百万円が本年4月中に完了し、更に第二次新株予約権の行使により約18億円の資金調達予定であり資金面での不安は一切無い状況であります。

当社は、平成15年10月1日に社名を変更し、数年に亘る赤字脱却のため努力して参りましたが、遺憾ながら新規事業の確立が遅れ当期に多額の損失計上となりましたが、これを重大な教訓並びに転機と受け止め、翌期以降早期の黒字転換を図るため可能な限りの負の資産償却による結果でありますことをご理解いただきたく存じます。

連結業績につきましては、当期から株式会社ウイン(議決権割合24%強)と株式会社修学社(議決権割合28%強)の株式取得により関係会社として持分法による連結対象となり、両社とも下期分が損失計上となるため連結損失は膨らみますが、平成17年3月期には両者とも黒字転換する見込みであり、今後も一段と関係強化を図る方針であります。

以上